

「父親との分離場面における子どもの様子の観察」

へのご協力のお願い

この文書は、「父親との分離場面における子どもの様子の観察」の内容について説明したものです。この研究に参加されなくても不利益を受けることは一切ありませんのでご安心ください。もし、おわかりになりにくいことがありましたら、どうぞ遠慮なく担当者にお尋ねください。

1. この研究の概要

研究課題

父親との分離場面における子どもの様子の観察

研究責任者氏名・所属・職名

・野澤 祥子 東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター 特任教授

研究従事者氏名・所属・職名

- ・新屋 裕太 東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター 特任助教
- ・大久保 圭介 国士舘大学文学部 講師◎（主に研究を実施します）
- ・江見 桐子 東京大学大学院教育学研究科 博士課程
- ・西垣 英恵 東京大学大学院教育学研究科 博士課程
- ・西村 あずさ 東京大学大学院教育学研究科 博士課程
- ・梅村 比丘 広島大学大学院 人間社会科学研究科 教授

研究目的

父親と子どもの分離場面を観察することで、その父子関係の特徴を調べるのが目的です。日本で父子を対象にした研究はほとんどないため、この研究は、父子関係の特徴や母子関係との違いを明らかにするために役立ちます。

研究方法

本研究は、実験室における観察と、自宅におけるウェブアンケート回答、ならびに提供して頂く家庭の映像の分析からなります。実験室における観察の所要時間はおよそ30分を予定しています。実験室における観察では、知らない人（ストレンジャー・女性）がいる状況で、父親との2度の分離場面と再開場面の様子を観察します。実験のプロトコルは以下の表の通りです。続いて、ストレンジャーがいない、父子だけの状態で普段通り遊んでいる場面も観察します。なお、最初の実験開始から終了時までを通して、3台のビデオカメラによって映像が記録されます。

ウェブアンケート調査は、お子さんの気質や状態、父親の育児に関する項目などについて回答して頂きます。研究者以外の者が回答の内容を知ることはありません。また、分析する前に氏名などを削りどなたのものか分からないようにするため、調査票の原票から個人が特定されることはありません。

また、本研究では、普段の家庭でのお子さんの様子を知るために、家庭でお父さんとお子さん

二人で遊んでいる場面の映像を10分程度の長さで撮って送って頂きます。Dropboxの専用フォルダにアップロードして頂きます。こちらは、アップロードが確認でき次第、速やかにHDDに保存し、Dropbox上からは完全に削除します。同じく、研究以外の目的で使用することはありません。撮影時の注意点については別でお知らせ差し上げます。

また、本調査への参加後から2年後を目安に、郵送にて再度お子様の発達に関するアンケートをお送りしますので、ご回答をよろしくお願い申し上げます。

表1 実験室における実験の流れ

| エピソード | 時間 | 詳細 |
|-------|-----|---------------------------------------------------------------------------------|
| 1 | 1分 | 実験者：親子を部屋に誘導する。部屋には親子のみ。 |
| 2 | 3分 | 親子のみ 子どもは落ち着いておもちゃで遊ぶ 親は必要以上のアシストはしない。 |
| 3 | 3分 | 親子とストレンジャー 最初の1分：ストレンジャーが入室する 次の1分：ストレンジャーは親と会話する 最後の1分：ストレンジャーは子どもと遊ぶ |
| 4 | 3分* | ストレンジャーと子ども（1回目の分離） 親が部屋から出る |
| 5 | 3分 | 親と子ども（1回目の再会） 親が部屋に戻り、ストレンジャーはすぐに部屋から出る |
| 6 | 3分* | 子どものみ（2回目の分離） 親が部屋から出て、子どもが一人で部屋に残る |
| 7 | 3分* | ストレンジャーと子ども ストレンジャーが部屋に入り、子どもと一緒にいる 必要があれば相互作用をする |
| 8 | 3分 | 親と子ども（2回目の再会） 親が部屋に戻り、ストレンジャーはすぐに部屋から出る |

*がついているエピソードは子どもの様子に応じて短縮します。

*この後、10分間のフリースプレイを行って頂きます。

2. 研究協力の任意性と撤回の自由

この研究にご協力いただくかどうかは、あなたの自由意思に委ねられています。一旦ご同意いただいた後で、もし同意を撤回される場合は、同意撤回書に署名し下記の連絡先までにご提

出ください。なお、研究にご協力いただけないことで、あなたの不利益に繋がることは一切ありません。

同意を撤回された場合には、観察の映像データ、アンケートの回答票、家庭の映像等の情報及び研究結果は破棄され、以後研究に用いられることはありません。ただし、以下の場合には同意を撤回しても情報を破棄することができませんのでご理解ください。

- ・調査の回答が完全に匿名化されて個人が特定できない場合
- ・すでにデータ解析が行われ、あなたの情報を分離して破棄することができない場合

3. 個人情報の保護

研究にあたってはあなたに不利益が生じないように個人情報の保護、プライバシーの尊重に努力し最大限の注意を払います。あなたの情報から、氏名・住所・生年月日などの個人情報を取り除き、代わりに新しく符号をつけ、あなたのものであることを分からないようにした上で（匿名化）、研究に用います。あなたの個人情報を、責任を持って厳重に保管します。また、同意して頂いた場合のみ、匿名化した映像を（モザイク処理等はしない元の映像）、ミネソタ大学の Elizabeth Carlson 教授に共有することがありますが、個人情報を提供することはありません。同様に、同意を得た場合のみ、国内外の学会にて映像の一部を見せる可能性があります。なお、その際、希望があれば保護者の顔にモザイク処理を行います（子どもの表情は分析の対象となるため、非処理になります）。

4. 研究成果の発表

研究の成果は、氏名など個人が特定できないようにした上で、学会発表や学術雑誌及びデータベース上で公表します。基本的には、学術雑誌などで映像や音声そのものが公開されることはありません。前項に示したように、同意を得られた場合のみ、学会発表で映像を見せる可能性があります。

5. 研究参加者にもたらされる利益及び不利益

この研究は診断やカウンセリングを目的としているわけではないので、あなたに即座に有益な情報をもたらす可能性は、現在のところ低いと考えられます。この研究の成果は、今後の発達心理学研究の発展に寄与するための重要な基礎的成果となることが期待されています。日本人の親子関係についての国際的な理解の進展につながると考えています。

一方、予想される不利益としては、親子分離場面において、子どもが過剰なストレスを経験してしまう可能性があります。泣きが強度の場合は、分離場面を短縮したり、実験そのものを中断したりするという手立てを講じます。また、アンケートやインタビューの最中に不快に感じる項目があった場合には、回答を飛ばしたり、途中でやめたりしても構いません。

6. 資料・情報の取扱方針

実験の映像や回答して頂いたデータは匿名化した上、研究や分析等に用います。また、東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センターにおいて、この研究成果の発表後少なくとも10年間保存いたします。

先述の通り、観察データはあなたの同意が得られた場合に限り、分析のために、国外の機関に提供したりする場合があります。提供する場合には、あなたの試料・情報であることがわからないようにして提供します。

7. あなたの費用負担

この研究に必要な費用を、あなたが負担することはありません。また、この研究に参加していただくことで、交通費を含めて、5000円分のAmazonギフトカードを贈呈します。2年後のアンケート調査に回答して頂くと、別に1000円分のAmazonギフトカードを贈呈します。

8. その他

この研究は、東京大学倫理審査専門委員会において審査し、東京大学大学院教育学研究科長の承認を受けて実施するものです。なお、この研究に関する費用は、東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター運営費および科研費（若手研究：24K16806）から支出されています。ご意見、ご質問などがございましたら、お気軽に下記までお寄せください。

連絡先

【研究責任者】

東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター 特任教授 野澤祥子
〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1
Tel: 03-5841-8311
Mail: labo_cedep@p.u-tokyo.ac.jp